

海外演習実践講座Ⅰ報告書

GMS学部 3年 GK9035

森田 稚子

1. 渡航先 タイ、バンコク

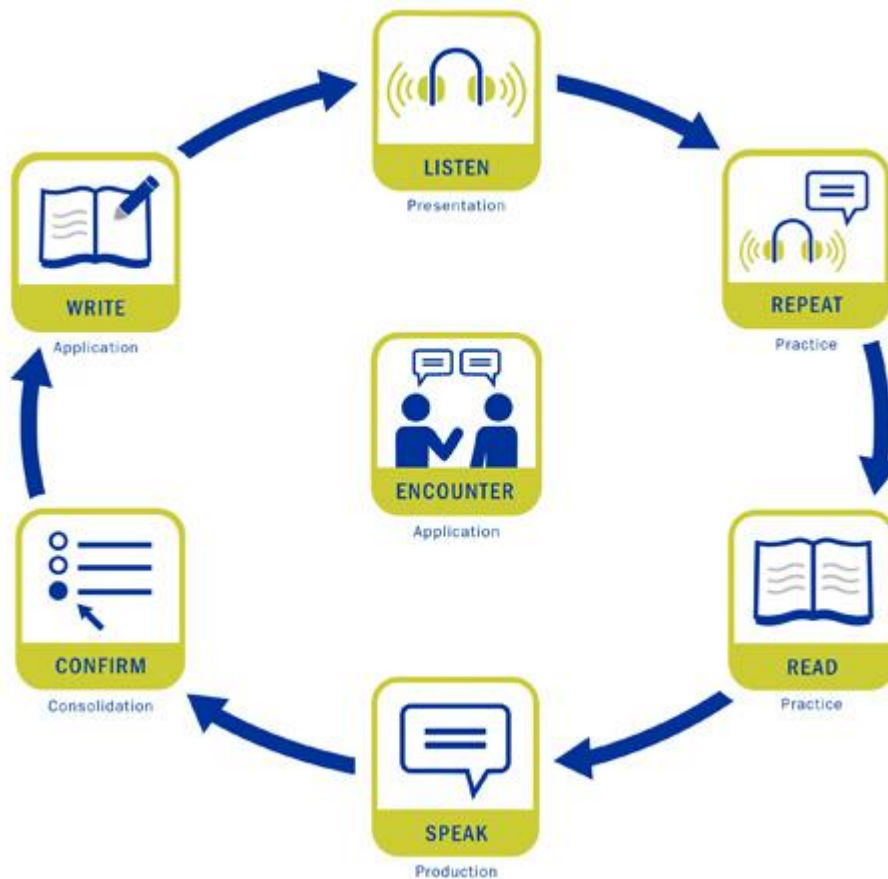
2. 渡航期間 3月12日～9月6日

3. 渡航先の組織名称・所在地 **Wall Street, Kamol Sukosol Building, 317 Silom Rd,
Silom, Bangrak, Bangkok, Thailand**

4. 渡航先で体験した事柄

(1) 語学学校における英語学習

私が通っていた Wall Street では自分でパソコンを使い進めていくプログラムをメインに勉強していた。



自分で進めていくプログラムは上の図のやり方になっていて、まずパソコンで英語の物語を聞きその後、自分でその物語を声に出して読む。次に再度、物語を聞きそれらについての問題を解く。そして、最後に先生にその物語で使われていた文法などのチェックテストをしてもらい進めていく。英語の物語を聞きながら分からないところは何度も繰り返して聞くことができ自分のペースで進めることが出来る。チェックテストは2、3人の少人数でほとんどその場でスピーキングのテストが行われる。このテストの後、先生から間違えて使っていた文法など、アドバイスが書かれた評価がもらえるのでそれで再度、復習をすることが出来る。

またこの他に、スピーキングの授業があり自分のレベルに近いレベルの人たちが集まって毎回異なるテーマについて話し合う。Wall Street の授業は宿題や予習、復習では問題を解いたりすることは多くても授業はほとんどスピーキングをメインに行われていた。

週末は月に1度ほど学校主催のパーティーやイベントに出席し、クラスメイトや先生と英語で会話していた。バンコクは様々な人種が集まる国際都市なので多種多様なバックグラウンドを持つ人たちと友達になることができた。

始めはタイで英語を本当に勉強出来るのかと不安に思ったが Wall Street は、全世界26ヶ国430校で共通した学習システムを使い、どの国でも世界水準の英語学習が可能であり、講師は全員ネイティブなので、映画によるリスニング、スピーキングの授業も「タイ訛り」の英語ではなくネイティブの英語を勉強出来た。また、バンコクは米国、豪州などから多くの旅行者、長期滞在者が住む国際都市のため英語を使うチャンスはたくさんあった。

(2) タイ語学習に取り組む

私は1カ月間だけタイ語学校にも通ってタイ語も勉強していた。私が通っていた学校の多くの生徒が日本語を勉強していて、日本語のレベルがとても高かった。そんな友達をみていて最初はタイで英語しか勉強する予定はなかったのだが、私もせっかくタイにいるのならばタイ語を勉強したいと思い、Wall Street が休みの時にタイ語を勉強した。だいたい1日に2、3時間 Wall Street の後に通っていた。クラスは基本的に3人ぐらいの少人数で会話を重視して毎日勉強していたので、割とすぐ簡単なタイ語は覚えることが出来た。タイ語を勉強するにあたって、英語との両立が出来るか、心配だったがタイ語は予習、復習をほとんど授業の中で行っていたので家では英語を

勉強することが出来、苦にならなかった。タイ語は日本語には無い発音がたくさんあり、声調も5つあるため、使い分けするのにすごく苦労した。しかし、タイ語を勉強するのはとても楽しかった。

学校の友達やデパートにいる人はだいたい英語でコミュニケーションを取ることが出来たが、タクシーの運転手やコンドミニアムの警備員などはあまり英語を話せなかった。そのため、タクシーに乗っても自分が行きたい目的地に行くのか、不安なことも多かったが、タイ語を理解できるようになってからはそんなことも無くなり行動範囲も広がった。タイ語は英語や中国語などとは違い、ほとんどタイでしか使うことの出来ない言語である。だが、ここ数年タイはかなりの経済成長を遂げていてこれからさらに成長していくことが予想される。だから私はタイ語を勉強していたらきっとどこかで役に立つ時が来るのではないかと思っている。

また、タイに住んでタイ語を勉強したことで将来への考えも変わった。タイに行くまでは日本で普通の企業に就職出来たらいいなと思っていた。しかし、タイで働いている日本人女性などに会って話を聞くうちに私もタイで働いてみたいという気持ちが生まれていった。タイで働いている日本人女性は現地採用で働いている人たちが多かった。現地採用ということは自分の意思でタイを働く場を選び住んでいる人たちなので、みな自分の夢や人生プランを持っていてすごく素敵な女性ばかりだった。そんな女性を見ていて私もタイで働きたいと強く感じた。そして、その為には今のタイ語のレベルでは出来る仕事が少ないので、もっともっとタイ語を話せるようにならないといけないと思う。タイ語も英語と同じで話をしたり、勉強しないと忘れていってしまうので、この勉強したことを無駄にしないように、継続してタイ語を勉強していきたいと思う。



(3) プロサッカーへの挑戦

私が留学先をタイに選んだ理由に語学を学びながら、タイでプロサッカーに挑戦したいという気持ちがあった。私はもともと幼いころからサッカーをしていて、ずっと選抜でプレーしていた。そして留学先を探していた時にタイで日本人の女性がプロでサッカーしているという話を聞いて留学先をタイに決めた。タイに行って学校にも慣れ始めたころ、チームを探し始めた。チーム探しはすごく大変だった。なぜなら私にはコネが何一つ無かったからだ。それでも、何もせずに終わりがたくなかったのでインターネットからタイでサッカーをやっている人を探し、片端から電話をかけた。そして、2週間後、プロチームの練習に参加させてもらえるところまでこぎつけることが出来た。このチームは、タイ女子代表も多くいるチームだった。

私はこのチャンスを逃したらもう終わりだと思い、必死で監督にアピールした。結果、練習生としてテストを1週間受けさせてもらえることになった。しかし、最初に聞いていた練習スケジュールと違って、学校との両立が出来なくなってしまうため、契約がとれず、プロになることは出来なかった。

私は残念ながらプロになることは出来なかったが、1週間チームの練習に参加して本当に良い経験が出来たと思う。チームメイトとは英語でコミュニケーションを取っていたが、伝えたいことを英語で表現するのはとても難しかった。しかし、この経験があったから、その後それまでの倍、努力して英語を勉強したのではないかと思う。

そして、プロにはなれなかったが、タイ人の友達に紹介してもらったチームや日本人だけのチーム、また西洋人もいるチームなど様々なチームに混ぜてもらいサッカー

をやった。このおかげで、サッカーを通して友達も増え、サッカーを通して英語やタイ語を勉強することができた。

(4) 日本人元プロサッカー選手との出会い

その中でサッカーを通して色々な人と出会う機会があり、今まで私が人生であったことがないくらい素晴らしい日本人の方に会うことも出来た。彼は元タイのプロのサッカープレイヤーでその後、ウガンダとバングラディッシュでもサッカープレイヤーをしていた人だ。ここまで聞いてもすごい人だ。そんな彼はなんと生まれつき手首から下の左手がない。それでも、障害をものともせず、何もコネも無いなか自分の力で契約を取り、彼はサッカープレイヤーになった。私は彼に出会い障害者に対する考えが180度変わったし、障害を持った人でもこんなに明るくて、前向きに挑戦している人がいるのだと驚いた。これは、テレビや本では味わえないものだと思う。そして、彼は今タイでサッカースクールを立ち上げ、日本人の子供にサッカーを教えながら、現地の孤児院と盲学校の子供たちにもサッカーを教えている。彼はこんな自分でもプロになれたのだから、子供たちにも夢を持って頑張ってもらいたいし、障害を持った人たちにも障害があっても前を向いて歩いてあるいていけば夢はかなうということ伝えていたと言っていた。私が彼に出会ったのは、タイに来て3カ月を過ぎようとしていたころだった。ちょうどその時の私はタイの生活にも慣れ、英語で友達ともコミュニケーションが取れるようになり、学校の勉強がおろそかになり始めていた時だった。しかし、彼に出会い、彼の話聞き私ももっと夢を持ってそれに向かって頑張りたい、そんな夢をもてるようになりたいと思ったし、もっともっと勉強したい、残りのタイ生活を無駄にしたくない、そう思い返すきっかけになった。

終わりに

タイ留学を終えて、語学を勉強出来た以外にも日本にいたら出来ないような経験がたくさんできたと思う。

タイ生活の中で私は物乞いをする子供たちを多くみた。その中で私がすごく忘れられなかった子供がいる。それは車が多い大通りにいつもいる男の子だった。その男の子は裸足で夕方から朝にかけて毎日、信号で止まる車に駆け寄って窓をたたいたり、窓から車を除きこんでいた。どんな大雨でも男の子はそこにいるのだ。日本では本当

に考えられない光景だった。タイの中でもバンコクはすごく発展してきていて、街並みもすごく近代的である。その一方でタイの中での貧富の差がすごく大きくバンコク中心部にもこういった物乞いの子どもたちが多く存在する。私はあの時見た子供の寂しそうな目が本当に忘れられない。タイ以外にもこういった物乞いをする子どもたちがいる国は多くあると思うし、本やテレビからそのことを知ってはいたが、実際見てみるとすごく衝撃的だった。

こんな経験も住んでみないと感じるができなかったと思う。私は今回のタイ留学で人間として大きく成長出来たと思う。そして、このタイ留学で感じたこと、経験したことを忘れずに残りの大学生活や就職活動に生かしていきたい。

